

事例9

< 事例概要 >

大腿骨接合術

- ① 70 歳代前半、体重30 kg 台の患者。血小板数5 万/ μ ℓ 台、Hb 5 g/dℓ 台。
- ② 大腿骨転子部骨折に対し、保存的治療を行い、赤血球液を投与。Hb 9 g/dℓ 台となり、受傷約2 週間後に骨接合術（髄内釘）を施行。
- ③ 整復位の獲得とラグスクリューの適切な位置への挿入が困難であり、複数回の整復操作とネイルの位置の調整を行った。手術開始約30 分で出血量200 mℓ、血圧50 mmHg 台、心拍数110 回/分台。昇圧薬を数回投与し、血圧70 ～ 80 mmHg 台。術中出血量630 mℓ。退室時血圧80 mmHg 台、心拍数140 回/分台。
- ④ 病棟帰室時、Hb 6 g/dℓ 台、大腿腫脹あり。約30 分後、意識レベル低下、心拍数150 ～ 170 回/分台。補液負荷と昇圧薬の持続投与開始。腹部超音波で下大静脈虚脱あり。赤血球液、新鮮凍結血漿、濃厚血小板を投与し、血圧110 mmHg 台。CT 中に心停止となり、帰室約3 時間後に死亡。CT の結果から大腿深動脈分枝からの出血が疑われた。
- ⑤ 死因は、血管損傷（疑い）による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。